

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成25年10月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成25年9月分(平成25年9月2日～平成25年10月6日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1	0.00	0.31		10	百日咳	6	0.02	0.08	
2	RSウイルス感染症	322	0.90	0.66	↗	11	ヘルパンギーナ	101	0.28	0.60	↓
3	咽頭結膜熱	312	0.87	0.44	↘	12	流行性耳下腺炎	45	0.13	0.62	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	256	0.72	0.58	↘	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
5	感染性胃腸炎	999	2.80	3.01	↘	14	流行性角結膜炎	59	0.62	1.33	↘
6	水痘	187	0.52	0.62	↗	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	229	0.64	1.08	↓	16	無菌性髄膜炎	14	0.13	0.06	↓
8	伝染性紅斑	3	0.01	0.12		17	マイコプラズマ肺炎	9	0.09	0.26	
9	突発性発しん	136	0.38	0.58	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成25年9月分(9月1日～9月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	59	2.57	2.31	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	94	4.48	5.29	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	11	0.48	0.58	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	0.33	1.02	
21	尖圭コンジローマ	24	1.04	0.66	↗	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	29	1.26	0.99	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.13	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 なし

●急減疾患 手足口病(933件 → 229件)
ヘルパンギーナ(199件 → 101件)
無菌髄膜炎(26件 → 14件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患、月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	40	結核(40)〔西部保健所(5), 西部東保健所(3), 東部保健所(3), 広島市保健所(23), 呉市保健所(2), 福山市保健所(4)〕
三類	11	腸管出血性大腸菌感染症(11); O26(5)〔広島市保健所(4), 福山市保健所(1)〕, O111(1)〔北部保健所〕, O121(2)〔西部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, O165(2)〔広島市保健所〕, O168(1)〔福山市保健所〕
四類	11	レジオネラ症(1)〔福山市保健所〕, 重症熱性血小板減少症候群(1)〔呉市保健所〕, 日本紅斑熱(9)〔西部保健所(2), 東部保健所(5), 広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕
五類全数	5	アメーバー赤痢(1)〔広島市保健所〕, ウイルス性肝炎(C型)(1)〔広島市保健所〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所〕, 梅毒(1)〔広島市保健所〕, 風しん(1)〔広島市保健所〕

3 一般情報

冬季に流行のピークが見られる感染症について

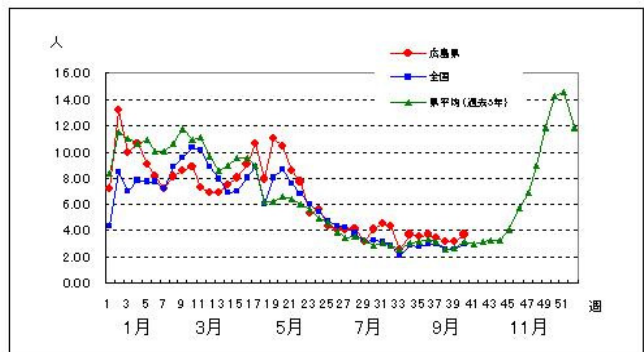
(1) 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎を引き起こす病原体は、細菌、ウイルス等たくさんの種類がありますが、冬季に流行する病原体は、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性のものが多くみられます。

なかでもノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があり、これからの季節、注意が必要です。

※ 高齢者施設、保育園や幼稚園などの施設では、ノロウイルス等を原因とする感染性胃腸炎の集団感染に対する予防対策をお願いします。

感染性胃腸炎の発生状況(H25年シーズン)



●症状

- ・発熱、下痢(水様便、血便)、腹痛、悪心、嘔吐などの症状が出ますが、病原体によって異なります。
- ・下痢症状が遅れてでる場合や発熱を伴わない場合もあります。

●予防方法等

- ・手洗い、うがいを励行するとともに、食品は十分に加熱調理しましょう。
- ・外から帰ったとき、トイレの後、調理の前、食事の前には必ず石けんで手を洗いましょう。
- ・患者の便や吐物には多量のウイルスが含まれています。これらのものを処理する場合は、直接素手では触れず、手袋を使って処理し、汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。
- ・嘔吐したり、下痢症状がある時は、タオルの共用は控えましょう。

※ なお、ノロウイルスに関する情報は、こちらのホームページを御覧ください。

厚生労働省(ノロウイルスに関するQ&A・手洗い手順)

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/link01-01_leaf02.pdf

(2)水痘について(「みずぼうそう」と呼ばれ、感染力が強い急性の感染症です!!)

●病原体 水痘・帯状疱疹ウイルス

●症状

- ・潜伏期間は2週間程度といわれ、子どもでは通常発疹が初症状で、成人では発疹が出る1日～2日前に発熱と全身倦怠感を伴うこともあります。発疹は全身性で”かゆみ”を伴い、紅斑、丘疹(発疹が隆起した状態)を経て、短期間で水疱となり、その後”かさぶた”となります。
- ・一般的には、倦怠感、かゆみ、38度前後の発熱が2日～3日間続く程度であることが大半です。
- ・成人では、子どもに比べて重症化しやすく、合併症の頻度も高くなります。

●感染経路 接触感染、飛沫感染あるいは空気感染により感染します。

●予防方法等

- ・発疹や発熱などの症状がみられた場合は、早めに医療機関を受診しましょう!!
- ・※ 学校保健安全法では、すべての発疹が痂皮化するまで出席停止となります。
- ・最も効果的な予防方法は、予防接種(任意接種)となります。
- ・また、水痘患者と接触後、72時間以内にワクチンを接種すれば、水痘の発症を免れたり、症状が軽くなったりする効果があるといわれています。